

ヒロハハナヤスリ *Ophioglossum vulgatum* L.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 13。温帯性の植物で、県内では生育地が少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

小形の多年生草本。根茎はあまり発達せず、根をまばらに生じ、年に1枚、高さ10~30cm（愛知県のものは高さ15cm程度）の葉を出す。共通柄は長さ2~15cmである。栄養葉は無柄、葉身は広披針形~広卵形、長さ6~12cm、幅2.5~7cm、基部は孢子葉の柄を包み、葉質はやわらかく、全縁、葉脈は細かい網目をつくり、二次脈も鮮明である。孢子葉は長さ10~20cm、孢子のう穂の長さは3cmを超えることもある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根（小林 37497, 1992-5-31）、18 田原西部（小林 59438, 1996-5-19）。尾：37b 尾張旭（芹沢 81236, 2007-5-5）。15 豊橋北部（馬越, 鳥居喜一 30328, 1954-4-29, HNSM）で採集された標本もある。

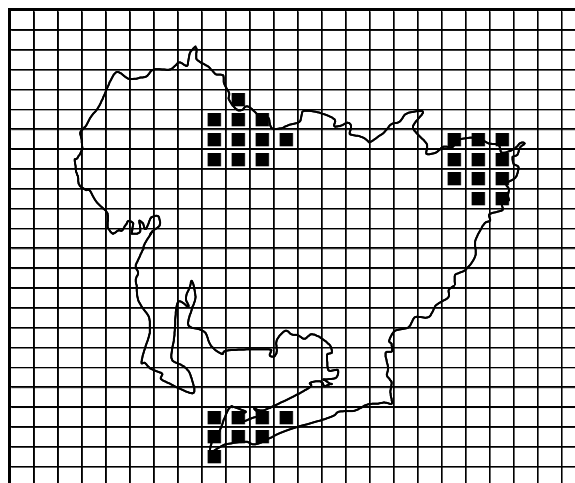
【国内の分布】

北海道から九州の各地に生育するが、中部地方以北に多い。

【世界の分布】

北半球の温帯に広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

落葉広葉樹林の明るい林内や、林縁の草地などに生育する。4月から葉を展開させ、夏には枯れてしまう。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	○		
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

豊根では、かろうじて牧場化を免れた林内に残存している。田原西部では遷移の進行による被陰で、生育状況が悪化している。一方で、開発や森林の伐採により消滅する可能性もある。

【保全上の留意点】

早春植物に似た年生活環を持つため、下草が茂りすぎると存続できなくなる。生育地の個別的な保全が必要である。

【特記事項】

ハルハナヤスリとも呼ばれる。

【関連文献】

保シダ p.31, 平シダ p.63, 学シダ I p.288, SOS 旧版 p.36.  
倉田 悟・中池敏之(編). 1990. 日本のシダ植物図鑑 6: 278-283. 東京大学出版会, 東京.